

平成30年度 太陽の家しいの実学園における自己評価結果（公表）

公表 平成31年3月14日

事業所名 社会福祉法人 光友会 太陽の家しいの実学園

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など	備考
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○		<ul style="list-style-type: none"> ●法的には適切だが、建物が古く、使い難さやデッドスペースが多い。 ●クラスごとに児童数や特性に合わせてスペースを工夫している。 ●遊戯室や園庭なども活用して活動の組み立てを行っている。 ●個人スペースを設けたことで、指導室での活動スペースは、狭くなったが、ホールや空き部屋をうまく使って活動している。 ●保護者から保育室の広さに対して児童数が多いと指摘があった。 ●指導室の収納スペースが非常に少ない。 	◎療育内容と参加児童数により、狭く感じることがあります。
	2	職員配置数は適切であるか	○		<ul style="list-style-type: none"> ●障害の重さの度合いに応じて支援職員の数を増やせれば、より良い療育ができると思う。 ●活動内容によっては、支援職員数を増やして欲しい時がある。 ●配置基準より多く配置し、個別的な支援が提供できるようにしている。 ●人数が適切であっても経験年数により支援の差が出ることもある。 ●法的な配置人数は理解しているが、活動内容等により余裕のある職員配置が必要な時がある。 ●非常勤職員をプラスアルファ的に多く配置できるメリットがある。 ●職員が休みでも代替要員が確保出来る配置数を確保している。 	◎配置基準以上に職員を配置していますが、児童状況や療育プログラムによっては、不足を感じる場合があります。
	3	生活空間は、本人に分かりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮がなされているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ●クラスに在籍する児童の特性に合わせ、スケジュールなど視覚的に情報を提示して、児童が分かり易いように工夫している。 ●建物が古く、危険な構造箇所があり、段ボールで覆うなど、危険回避に配慮している。 ●スケジュールを用意し、先行きの見通しが持てるようにしている。 ●絵カードを活用するなど、視覚的に伝えるようにしている。 ●障害特性に応じて物理的構造化を行っている。 ●段ボールのパーテーションが弱く、安定感に乏しい。 ●パーテーションなどのエリア分けや空間配慮、視覚的情報提供など児童の特性に合わせた配慮がなされている。 ●障害特特別クラス編成による特性に応じた療育に配慮している。 ●保育室内にトイレがなく、排泄介助が難しい。 	◎構造化には、積極的に取り組んでいますが、老朽化の目立つ建物のため、バリアフリー化等は、十分対応できない現状があります。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか		○	<ul style="list-style-type: none"> ●毎日の清掃に力を入れているが、施設の老朽化の問題が大きい。 ●保育室のトイレは暗く、コンクリートも冷たいので、排泄を嫌がる児童が多い。そのため、マット等を置いて入り易い空間にしている。 ●保育室内にワークエリアを設定して、集中して自立課題を行うことができるようにしている。 ●建物の老朽化が著しく、徹底した清掃を日々行っても限界を感じる。 ●感染症に弱い児童が多いため、衛生面では、常に配慮している。 ●保育終了後に清掃や玩具の消毒等を行っているが、建物の老朽化により十分とは言えない。 ●消毒、清掃は徹底されているが、廊下で配膳を行うことについては衛生面等から課題を感じる。 ●毎週末、玩具、机、椅子、床なども消毒を行っている。 ●壁の塗装が至る所で剥がれており、見苦しい。 ●老朽化により清潔とは言えないが心地良く過ごせるようにしている。 	建物は、43年を経過し老朽化が著しい状況です。日々、清掃や消毒等により衛生面の課題に対処していますが、建物の構造の問題も含め、改善には苦慮しています。建物全体の再整備の話がありますが、具体的には、不明の状況です。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に広く職員が参加しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ●業務の実態調査の実施等、業務改善に向けて検討している。 ●業務改善を進めるため時間の使い方の実態把握を行っている。 	
	6	保護者向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善に繋げているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ●毎年、保護者アンケート調査を実施し、その集計結果については、書面で配布するとともに、全体懇談会で保護者に周知・報告している。 ●保護者アンケートで保護者の意見が多い項目については、園内で周知・調整することによって改善すべき点を把握して、改善に努めている。 	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を事業所の会報やホームページ等で公表しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ●保護者が多数集まる全体懇談会で、書面で結果等を伝えている。 ●定期的な職員会議などで、全職員が共通の理解を持って療育にあたることができるように話し合いの機会を持っている。 ●平成30年度には、保護者評価と職員評価を実施し、公表する準備を進めている。 	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○		◎第三者評価は受けていませんが、外部SVの助言を受け、改善を心掛けています。

適切な支援の提供

9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●法人による全体研修会を含め、虐待防止等の園内研修会を定期的実施している。 ●外部研修に積極的に職員を参加させるように常に配慮している。 ●外部からスーパーバイザーを招へいて、各クラスの支援内容を確認してもらい、気付きの機会を確保している。 ●研修機会の確保に努めているが、十分なレベルではない。 ●常勤職員向けの研修は多いが、非常勤の研修機会が少ない。 ●研修機会を与えられるのを待つだけでなく、自己研鑽に励む必要があると思う。 	
10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●適切な時期に保護者の意向を確認しつつ、個別支援計画の策定を行っている。 ●一日の療育が終了した後で、クラス単位で児童の様子を話し合うようにしている。 	
11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●標準化されたアセスメントツール活用して、その結果を踏まえ、生活や遊びの支援にリンクさせていきたいと思う。 ●もっと細かい評価表などがあれば、担任が変わったり、経験年数が少なくとも評価しやすいし、全体的での評価が統一できると思う。 ●学園全体で統一されたアセスメントツールがないため、今後、作ってほしいと思う。 	◎今後、標準化されたアセスメントツールについて検討し、日常的に活用できるようにしていきたいと考えています。
12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●児童発達支援センターの3つの柱を意識した支援内容の組み立てが必要であると認識しているが、①として構造化等の障害特性に応じた発達支援、②として保護者教室の充実強化、③として相談支援体制の強化を考えていたが、③相談支援体制の強化については、十分なレベルとは言えない。 	
13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●日々、目標に沿った支援に配慮し、その状況を把握して、評価・記録を行っている。 ●クラス担任になった時は、前クラス担当職員から支援計画や支援状況について確認し、ケース記録等からも特性を確認している。 	
14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●クラス担任全員で意見を出し合いながら活動内容を決めている。 ●リーダーが原案を作り、全担当でそれを元にして考えている。 	
15	活動プログラムが固定化しないように工夫しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●季節が感じられる活動を取り入れたり、児童の特性に合わせた活動にアレンジするなど、プログラムが固定しないように工夫している。 ●週ごとに同じ内容になっていないか確認しながら活動を考えている。 ●同じ活動でも内容を発展させるなど、違いを出すよう工夫している。 ●他クラスから情報を得たり、セラピストに相談するなどしている。 ●発達段階、季節などに応じて、活動の組み立てを行っている。 ●週や月単位で見ながら活動内容を考えている。 ●遊具が沢山あるので、色々な活動を立案できるメリットがある。 	
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●個別活動の実施については、頻度及び内容については、見直しできるシステムが機能していると良いのではないかと。 ●子どもの状況に応じて、他クラスと交流を図るようにしている。 	
17	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●毎日、児童が登園する前に活動の狙いの打ち合わせを行っている。 ●毎朝クラスで打ち合わせを実施するとともに、必要に応じて全体でも打ち合わせを行っている。 ●ホワイトボード等に配置図を記入するなど、図示することによって職員が分かり易いようにしている。 ●当日に時間が取れない時は、前日に必ず時間を取るようにしている。 	
18	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の振り返り、気付いた点等を共有しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●活動記録を記入する際など、クラス職員間でその日の出来事などを確認し合い、振り返りを行うようにしている。 ●リーダー職員に自分の反省点を伝えるようにして、その都度アドバイスをもらっている。 ●業務の実態調査を進め、振り返りの時間を十分確保できるように業務改善を行う方向で調整している。 	
19	日々の支援に関して記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●支援課題を踏まえ、細かく記入し、空欄が生じないようにしている。 ●毎日子どもの活動記録(評価表)を記入して、食事、排泄、運動、言語、認知、情緒、行動など、項目ごとに評価・記入している。 ●書式については、適宜見直しを行いたい。 ●クラス担当職員同志で話し合いながら記録し、自分では見られなかった点等についても記入出来るように努めている。 	
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●定期的に見発管・クラス担任、訓練士等で全ケースの検討会を開催して、個別支援計画の見直しを行っている。 ●毎月の目標設定時にクラス担任で話し合い、目標が達成されているか確認・修正を行っている。 	
21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が出席しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●児発管、クラス担当者等、児童の状況に精通した職員が出席している。 	

関係機関や保護者との連携関係	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○	●市の関係機関(障害福祉課、子ども家庭課、保育科課、保健所)や児童相談書等と連携しながら支援しているケースがある。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	○		
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	○	●保護者に同行して主治医から医療情報を確認したり、主治医に対して、情報提供書の作成をお願いするなど、重症心身障害児のように医療ケアが濃厚なケースの場合は、積極的に連携体制を取っている。 ●医療ケアが濃厚な児童の場合は、学園で過ごす上でポイントとなる部分や気をつける点等について主治医に指導書の記入をお願いしており、それを職員間で共有して支援している。	
	25	移行支援として、保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○	●並行通園をしている児童で、移行の可能性のある児童に対しては、幼稚園等に職員が出掛けて、先方の職員と意見交換するなど、情報交換と相互理解を図るように努めている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○	●書面による情報の引き継ぎ等を個別に行っている。 ●特別支援学校とは、情報交換を行うことができているが、支援級や普通級については、十分ではない。 ●市の就学支援委員会に職員(児発管)が毎月出席し、年長児を中心に就学に向けた情報交換や検討を行っている。 ●クラス担当職員も必要に応じ、市の就学支援委員会に出席している。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○	●現場職員レベルの定期的な連絡会や施設長レベルの連絡会には、積極的に参加するようにしている。 ●先進施設(児童発達支援センター)へ職員を派遣して、現任研修を行っていた。今後も行っていきたい。 ●もっと多くの職員が他施設等への研修に参加し、その内容を発表するなどすれば、全体の力のアップが図られるのではないかと。 ●研修に行く機会はあるが、事業所間での連携にまでは至っていない。	
	28	保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や障害のない子どもと活動する機会があるか	○	●月1回の集団交流、週1回の希望児を対象とした個人交流を行い、地域の保育園に通園している定型発達児との交流機会を持っている。 ●集団交流の機会をもっと増やしたい。	
	29	自立支援協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○	●特別支援教育協議会や子ども発達支援連絡会議等の市主催の会議に施設長が毎回参加している。 ●自立支援協議会に子ども部会がなく、その設置を強く要望していく。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○	●お便り帳だけではなく、必要に応じて電話や面談を行い、保護者と共通理解を持つことができるよう配慮している。 ●親子通園日を設け、支援場面を共有し、相互理解を深めている。 ●必要に応じて、家庭訪問を行い、家庭内での養育等について助言するようにしている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者等に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っているか。	○	●保護者の支援力の向上を図るため、積極的に保護者教室を開催し、保護者が子どもの障害特性等を学ぶ機会を提供するよう努めている。	◎今後も保護者教室の企画・運営には、その重要性を認識し、力を入れて取り組んでいきたいと考えています。
保護者への説明責任等	32	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○	●契約時、変更時などには、個別に丁寧に伝えている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○	●定期的に個別面談機会を確保し、支援計画の確認・修正、同意を得ている。	
	34	定期的に保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○	●保護者から相談があれば、常に受け止めるようにしている。また、保護者から特に発信がなくとも、気になっていることはないかと、聞くようにしている。 ●保護者から相談内容を確認し、必要があれば、上司やセラピストに伝え、組織的に対応するようにしている。 ●計画更新時の定期的な面談に加え、適宜、面談の場を設けている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○	●会の中心となっている保護者との連絡・調整に配慮するとともに、開催場所の提供を行っている。	

非常時等の対応	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速に対応しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●要求や申し入れ等があれば、迅速に対応している。クラス担任から上司への連絡等、内容によっては、クラス単位ではなく、児発管・園長等に対応するように配慮している。 ●内容によっては、他の相談支援事業所と連携して支援している。 	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に発信しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●毎月発行する園だより、法人ホームページへの記事・写真の掲載など、地域への情報発信に努めている。 	
	38	個人情報の取り扱いに十分配慮しているか	○		
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●言語等の情報伝達が難しい障害児に対しては、視覚的な情報伝達（構造化といわれるスケジュールや絵カード等の使用）に配慮している。 	
	40	事業所の行事に地域の住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を行っているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●年1回、大規模な祭りを開催して、地域住民に開かれた行事運営に配慮している。 	
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を作成し、職員や保護者等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●様々な状況を想定した防災訓練を開催しているが、計画的なものだけではなく、抜き打ち的な訓練も必要ではないか。 ●マニュアル類が現状では不十分なものがあり、部分的に見直しが必要ではないか。 	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●毎月、地震・火災・津波等を想定した防災訓練を年間計画を作成して、計画的に実施している。 ●年1回、総合防災訓練を実施し、近隣消防署の協力を得て、起震車による地震体験、煙テントによる煙体験訓練、消火器による消火訓練等を児童と保護者の参加の元で行っている。 	
43	事前に服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●保護者からの聞き取りや児童の状況を綴った各種資料により服薬内容、てんかん発作、医療的な配慮事項等の確認・把握を行っている。それらの情報について児発管やクラス担当者を中心に情報共有に努めている。 		
44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●栄養士とクラス担当職員で月に1回、献立に関する食物アレルギーの確認を行っている。 ●医師の指示書だけではなく、保護者からの聞き取りなども考慮して対応している。 ●給食のプレートやトレーの色を変えるなど、他児と視覚的に区別して、間違いを回避出来るように工夫している。また、2人以上の職員でその都度ダブルチェックしている。 		
45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●毎月のヒヤリハットを集計・グラフ化して、どのようなヒヤリハットが多いかなど、分かりやすく提示して、職員会議で周知・確認している。 ●重大なヒヤリハットは、終礼等で全体に周知するようにしている。 		
46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保するなど、適切な対応をしているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●外部から講師を招へいして、虐待防止研修会を開催し、療育支援における虐待行為の防止に心がけている。 		
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもの保護者に事前に説明し、了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●重症心身障害児のバギー等の利用時に使用する胸ベルトの使用については、嘱託医の整形外科医の指示の元、保護者の同意を得て行っている。また、その点については、児童発達支援計画に必ず記載している。 	◎身体拘束に当たる行為は、一切行っておりません。全職員も常に意識して支援を行っています。	